

秋退教

No. 72

2017年2月20日

秋田県退職教職員協議会

秋田市山王 4-4-14

(秋田県教育会館内)

よりよく生きるために

高齢者福祉に

関心を!



平和学習・親睦を基に大同団結を！
会長 川村 豊太

新しい年、幾つになっても目標なり決意なりを持ってしまおう。さて今年も、県内をゆつくりと回りたいものだ。

「山車」「屋台」「鉾」の新たな世界無形文化遺産の指定があり、秋田から「花輪祭の屋台」「土崎神明社祭の曳山」「角館祭のやま行事」も選ばれた。まだ見たことがない角館の「山ぶっつけ」を第一目標にしたい。それと毛馬内の盆踊りも気になる。今一つはJR五能線の旅である、「リゾート〇〇」に乗り、途中下車をしながら一泊旅行を実現したい。

さて昨年は、7月参院選挙で「あなたに正義」氏が皆さんの協力により当選したことは本当によかった。ただ、東北六県で、秋田県だけが自民党に敗れた。TPPも安保法案の強行採決も県民の批判票とはなり得なかった。どうしてだろうか。どこが、他県と違うのかと考えてしまおう。

今また、年明け解散が取りざたされている。安倍一強内閣の下で、年金も生活も、ずたずたにされている。我々になにができるのだろうか……。秋退教も加入が進まないことと、高齢

化が進むことで活動も財政も停滞が更に深刻になっている。秋退教にかかわらず、教育協会、退公連など、退職者団体の活動も同じである。退職者が集まる機会と場所が少なくなっている。再任用制度ができてから、退職者をどう組織するかが大きな課題でもある。

我々の活動の柱は平和と学習、そして親睦である。何かをポイントに大同団結をはかりたいものである。そのひとつとして教職員共済の活動で、男・女の会員を中心とした学習・親睦の会からはじめられないだろうかと考えているが、どうだろうか。

「秋教組結成の思いを引き継ぎたい」
山王 豊太



書記局の書庫を整

理していたところ、秋教組の前身である「全秋田教員組合」の第1回大会(1946年3月)でのあいさつ原稿が出てきた。協本青年学校の野紙に書かれていたところから見ると、花岡泰雲氏のものと思われる。

若干引用してみたい。

「願みますれば長い日々、吾々教員は……教育者の名のもと、官僚から軍閥から或は社会から……圧迫を受け、……肺結核患者を死の病床に送り、学校

年金改革法案(年金額の抑制)成立

昨年12月14日の臨時国会で「年金改革法案」が十分審議を尽くさない中、与党と日本維新の会などの賛成で可決成立した。この法案は、現在の高齢者への給付額を減らし、若者世代が将来受け取る水準が予想以上に減らないようにする内容である。具体的には①物価が上がって現役世代の賃金が下がれば給付額をさげる(現在は据え置き)②物価も賃金も下がれば下落幅の大きい方に合わせて給付額を下げる③マクロ経済スライドは、デフレ時には実施しないルールであるが、2018年度以降はデフレ時に抑制できなかつた分を繰り越し、物価や賃金が上がった年にまとめて減らす——などです。

増産畑の作物処理に忌まわしい行為をせねば生きてゆけぬ仲間……窮境打開の為に立つ先覚の同志を悪官僚の手によって牢屋に送ることに対する防遏手段を持ち得ませんでした。併し(敗戦によって)……世界文化の建設のために、我々の生活の擁護を叫び、教育制度の民主化を絶叫し得る格好の機を得たのであります。……民主革命遂行の第一の方法として、我々は労働組合運動の発展が……あることを確信してやみません。」
秋教組が結成されて70年、この思いをしつかりと引き継いでいきたいものである。

秋退教習会

演題「愛する家族のための終活とは」

秋退教主催の学習会は、昨年6月22日(水)定期総会終了後の午後1時20分より教育会館で開かれました。

講師は、コスモス秋田終活課長の戸田孝市氏で、だれでも直面する内容だけに出席された30余名の会員は熱心に聴講していました。(講演要旨を紹介します)

親の家をどうするか

例えば、親と子どもが別々に暮らし、親が病弱、そして亡くなった時、どんなことが想定されるだろうか。想定されることとして介護のことから、葬儀、墓、財産処理、家を含めた家財の整理など多岐にわたっているが、当面家をどうするかである。①子どもが相続する②空き家にして中古として売却・賃貸する③更地しておく(更地にする)と固定資産税が5、6倍になる)など、いろいろ考えられる。

遺品の整理

残された子どもは親の遺品を整理しなければならぬが、この整理に意外と時間が費やされる。まず、「何から手をつけてよいか」で迷う。一番迷うのがアルバムの整理である。方法としては、①必要なもの②いらぬもの③保留するもの——に分ける。想い出の品にも順位をつけ、②と③については供養してもらい、気持ちの整理をつけてもらうのも一方法である。また、自分で整理すると

かなりの時間を費やすが「遺品生前整理のプロ業者」に依頼すると数時間で終了する。この際注意することは、業者に頼む前に時間をかけて整理しておくことも必要である。優良業者の見分け方として、①見積もりに誤差が少ない②親族を立ち合わせ③不用品の買い取りもある——などである。

「片づけ」のコツとメリット

片づけのコツは、「元気なうちに準備をすること(生前整理)」。そして、元気なうちに整理を始めること。メリットは、◎親と思い出を共有する時間を得ることができ◎実家に通うことで親の健康状態を把握できる◎遺品の整理の負担が減る◎快適な老後生活を送ることができ———である。

終活とは「残りの人生を後悔のないように生きるために準備することであり、しっかり準備することが愛する家族のためになる」と私は考えている。

東日本大震災が発生した年の7月に、津波で被災した大船渡市を視察したので、次は原発の被災地に行ってみたいと思っていたところ、

日退教と福島県退職教職員協議会共催の「福島原発から5年半福島を今を……」のスタディツアー(昨年11月13日〜14日)があることを知り参加した。初日は学習会、交流会、

翌日はフィールドワークがあり、被災地(川俣・飯館・南相馬・小高・浪江)をバスで巡回しながら視察した。

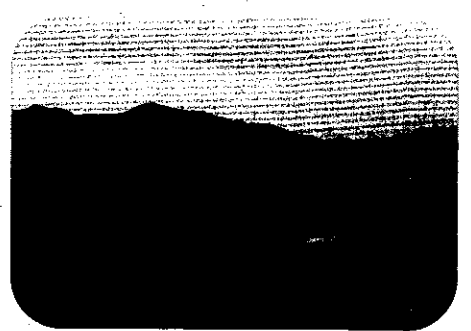
減り続ける避難校の生徒

放射線汚染で帰宅困難地域にある浪江中学校は、現在二本松にある小学校の廃校を使用し授業を行っている。震災前396名在籍していた生徒は

震災後、転校などで現在三年生10名、二年生と一年生が各3名、計16名と極端に少なくなっている。来年度の入学生は3名の予定だが、他校へ転校との話もあり、0名になる可能性もあるという。帰宅

困難が続けば地域の崩壊はもろろん、子どもの教育をどうするかなど、困難な課題が多く待ち受けている。

シートに覆われている汚染物質



行き場のない汚染物質

今春避難指示が解除される飯館村では現時点でも汚染物質(主に土壌)の入った170万袋が山積になっている。この袋は中間処理施設へ運びこまれることになっているが、国の担当者は「4年後の東京オリンピックまでに片づかないだろう」と嘆息しているという。

避難解除はされたが……

昨年7月20日南相馬市小高地区が、放射線量年20μシーベルトを下回ったとして避難解除を強行した。10月30日までに帰還した人は1066人(震災前の10.1%)。しかし地区にはコンビニ、スーパーもなく、市立小高病院は診療を開始したが入院、薬局もなく、生活に必要な生鮮食料品や薬は他地区まで行かなければならない。また長期避難から

イノシシ、サルが人家を徘徊。生活環境が脅かされる中で、の解除は許されていいのだろうか。

多発する甲状腺ガン

原発の事故後、福島県は事故当時18歳以下の県民を対象に甲状腺検査を行っている。5年経過時点で32万人が検査を受け、173人が甲状腺ガン(疑いも含む)と診断された。これは割合でいうと10万人当たり54人となるが、専門家は「原発事故がなければ100万人に3人の発症率である」という。いかに多発しているかがわかる。

放射線量測定器を渡されて

ツアー参加者には放射線量測定器を二人に一個渡された。

0・23マイクロシーベルト(μ Sv)を上回れば人体に影響があるとのこと。バスの中は0・10 μ Svほどであるが、今年3月、国の指示で避難指示が解除される学校の通学路付近では7・0 μ Svと表示された箇所もあり、この中を子どもが毎日通うとどうなるだろうかと思うと怖くなった。原発事故で、人の住めなくなった地域を一巡しただけでも「原発はもういらぬ」と誰しも思う。

しかし安倍首相は被災地を訪問しても原発再稼働、経済優先の政策を変えないでいる。その根底にはいったい何があるのだろうか。

秋退教主催の親睦・交流事業

大会

囲碁

・期日 9月9日(金)
 ・会場 秋田県教育会館
 ・参加者・参加者 Aクラス(無差別) 3名、Bクラス(二段〜五段) 7名、Cクラス(初段以下) 4名、計14名

★ 戦績 (敬称略)

- Aクラス 優勝 ○土倉和夫(大北) 準優勝 ○佐藤貞夫(大北)
- Bクラス 優勝 黒沢栄作(秋田) 準優勝 ○中田博(同)
- Cクラス 優勝 ○大沢淳二(本庄) 準優勝 川村豊太(秋田)



※東北ブロック大会には○印の4名とBクラスに加藤安總(秋田)、Cクラスに木村寛(同)が出場し、大沢が準優勝と健闘しました。

「秘策」 本荘由利支部 堀 鐵三郎

「今年には行かない」と思っていた。これまで数回出場したが成績は一向に振わず毎回90〜100打ではチームに迷惑をかけるから……。

今年人は足りなく1チームしか出られないとのこと。その4人の一人に何で?と思ったが、支部のために少し練習をしようかと、自らの「秘策」を前日に練習してみた。秘策的中し、団体・個人戦とも優勝。

グラウンドゴルフとの出会いは昭和59年、新聞で見たニュースポーツの記事。県内でもあまり知られていないのに全県大会を開催する許可をもらった。曰く『秋田県グラウンドゴルフ親善交流大会内大会』。10数回で止めたのであるが大きなイベントだった。そのことと今回の秘策と優勝は関係なきものとご理解願う。



- 三浦豊彦 (男湯南B)
- 石井昭廣 (同)
- 堀鐵三郎 (本庄)
- 村山廣樹 (同)
- ブルービー賞 佐々木 紀久男 (能山)

大会

★ 成績 (敬称略)

◇ 団体の部

◇ 個人の部

- ・期日 10月4日(火)
- ・会場 湯上市天王グラウンドゴルフ場
- ・参加者 各支部より7チーム28名
- ・コース 4コース 32ホール
- ・優勝 本荘由利(中村定次、堀鐵三郎、東海林明夫、村山廣樹)
- ・準優勝 男鹿湯上(南秋三浦豊彦、夏井義孝、石井昭廣、佐藤弘)
- ・三位 大館北秋(松尾和夫、神成重雄、松尾キン、高田政男)
- ・優勝 堀鐵三郎(74打・本庄)
- ・準優勝 石井昭廣(81打・男湯南)
- ・三位 畠山イセ(83打・大北B)
- ・ホールインワン賞 松尾和夫(大北A)
- ・神成重雄(同)、松橋英雄(大北B)
- ・畠山イセ(同)、池田信男(秋田)
- ・黒沢健文(男湯南A)、佐藤壽(同)

鹿角支部

学校統合と少子化について
伊藤 正信

一昨年、田代分校児童が一人もいなくなり廃校になりました。秋田県唯一の分校も消えたことになりました。私が鹿角に赴任したのは昭和32年で、当時小学校22校、中学校10校、そして分校7校(季節校含む)あったと記憶しています。鹿角は鉾山、伝統文化、温泉群、農産物など豊富で児童生徒も多く賑やかな地域でした。昭和30年初めのころから高度経済成長の進展で若者の都市移動が始まり、農業県はその影響を多く被ることになりました。学校統合により昭和30年代の初期と比較して鹿角地区の学校数は3分の1ほどになりました。「少子化になったので学校統合」というのでは少子化の解決にならないと思います。

ある父母との会話から「子供2人まではいいが3人になると負担が重過ぎる」等と教育費の負担について話していました。少子化対策は多様な面から考えていかなければならないと思います。が、父母の負担を少なくしていくこ

とはその一歩になると思います。

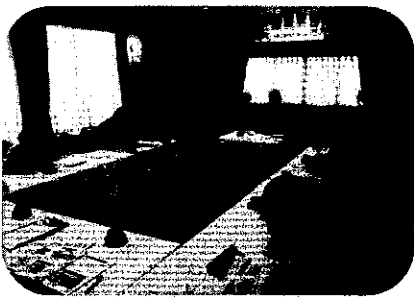
県内でも「給食費の無料」「中学までの医療費の無料」「大学生への奨学金」その他努力されている自治体も多くなってきました。

秋田県は間もなく100万人も割ると報道されています。少子化対策は私たち県民にとって喫緊の要事だと思います。

横手支部

実り多かった「現・退研修会」
阿部 和夫

毎年開催している本支部主催の「現職・退職者合同研修会」は今年度で6回を数え、その重要性が増してきています。12月3日、横手市・松興会館において12名の出席者で行われました。今回は、東北労働金庫秋田県本部の田村雄次氏を講師に迎え、現職の方々の今日的な課題である「個人型確定拠出年金制度」をテーマに掲げ、講話をしていただきました。



ただきました。また同時に、現在の年金制度そのものにもスポットを当て、出席者全員でじっくり考える機会としました。講師からは、これまでの年

大館北秋支部

「アベノミクスと富国強兵」
浜 矩子さんから学ぶ
島内 重昭

金制度の変遷や「個人型確定拠出年金」が制度化された時代的背景、その内容の詳細を説明していただき、本当に有意義な研修会となりました。今回は、より多くの会員に出席いただけるようなテーマ設定のもとに、研修会を開催したいと考えています。

11月5日、機会を得て秋教組教育研究集会で浜矩子さんの講演を聴いた。テレビ等で著名な同志社大学大学院教授の彼女を招いた秋教組に敬意を表しつつ、そのお話の一端を紹介して、感想を述べたい。

演題は「経済活動は誰のため、経済政策は何のため? ——平和と人権のための謎解き——」である。

2013年、渡米した安倍首相は右派の講演会で次のように述べたという。「外交安全保障政策と経済政策アベノミクスは一体である。日本経済のデフレからの脱却で、国防費を生み出していく」と。

浜さんは指摘する。安倍首相のこの主張に変更はない。アベノミクスとは富国強兵政策であると。

高齢化社会にあつては、年金カット法も医療費の自己負担増もやむをえないのかなと思いがちだが浜さん

によると、それは「お人好しの騙され損」。現に、大企業減税は続行中、

防衛費の拡大や増額される米軍への思いやり予算、各国への経済援助など、国のお金の使い方こそ問題にすべきことだと。

浜さんは強調する。安倍晋三氏の戦後レジュームからの脱却とは戦前の大日本帝国への回帰なのだ。

浜さんは訴える。アベノミクスの破綻は明白だが、これと戦う私たちには道具が三つ必要であると。それは、多くの人々の声を傾聴できる耳、人の悲しみを共に涙して泣く目、その人に差し伸べられる手だ。アベノミクスを推進する面々には持ちえない道具であると。

数的事例と具象を示す浜さんの講演には納得と感動を覚えた。

能代山本支部

わが家の愛犬
佐々木 紀久男

今、ペットブームとかで小動物を飼っている人が多いようです。

わが家でも犬(パピヨン)が居ます。この犬はブリーダーが子犬を生ませるために飼っていたが、死産が続く、処分しようとしたのをもらい受けました。わが家には前にヨークシャーテリアの犬が居たのですが、老衰で死んだ後でしたので、ちようどよかつたというわけです。

各支部からの寄稿

この犬は6年間バター式のケージの中で生活していたので社会性がありませんでした。大小便はどこでもするので、これを直すのに時間がかかりました。また、散歩をしようとしません。首輪をすると、嫌がって座って動きません。人が来ても吠えることがありません。この点は静かで助かります。

わが家に来て4年になり、やっと家族の一員として仲良くやっています。犬の歳は今10歳です。私とどちらが早くこの世から消えるかの勝負です。

秋田支部

「子どもの権利条約」の視点で
現・退が協力して活動しよう

内藤 眞吾

いじめ、不登校、引きこもり、自死、貧困、競争と成果主義の横行……子どもと若者を取りまく環境は一向に改善されず、現場の教職員の苦悩は深まる一方のように見えます。

8月に、秋教組の呼びかけに添えて「国連子どもの人権条約」の視点で秋田の教育を考えるネットワークが結成されました。

高校、大学の組合、弁護士会、障害者団体、各労組、自治体議員など、広く県内各界の有志をつないで在野の立場で学習し発信していこうという趣旨です。

秋退教を代表して私が出席し、寺沢修平弁護士と山縣稔秋教組委員長の3人が当面、会の共同代表として活動を進めることになりました。

10月県議会の「いじめ条約」の制定にあたり、附帯決議の請願書を提出しました。(結果は不採択)

子どもの生活と教育条件の改善に向けて現職と共にならばる秋退教の姿を示していきたいと思っております。各支部の応援もよろしくお願ひします。

男鹿潟上南秋支部

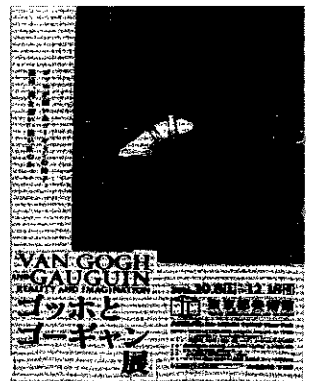
ゴッホとゴーギャン展

佐藤 壽

趣味や特技を生きがいにして
いる会員の方も多いと思う。

私は、専ら絵画鑑賞が何よりの趣味である。時折出かけては、楽しんでいける。一枚の絵から受ける感動は忘れられない。この

秋、上野の東京都美術館で「ゴッホとゴーギャン展」が開かれていた。ゴッホは誰もが知っている画家である。ゴッホの絵を知ったのは、中学生の頃であったと思う。強烈な色彩と力強いタッチが忘れられない。ゴッホに感動し画家を志した人も多い。棟方志功は、ゴッホに魅せられ世界の板画家になった。(編集者注)志功は自分の版画を「板画」と言った。見学した時は、雪の降りしきる日で、館内はいつにもなく見学者も少



なかつた。そのお陰で周りを気にせず充分鑑賞できた。

ゴッホの人生は凄まじい。一生を貫き通したものは何であつたらうか。魂をあれほどまでに昇華させ絵にしたものは何であつたらうか。

日本で初めて公開された「収穫」があつた。ゴッホ作品の傑作の一つといわれ、美術の教科書にも載っている。傑作を直に見られる機会はそんなにない。展覧会は、本物に触れることのできる感動の一時である。

仙北支部

たかが署名、されど署名

藤本 尉一郎

私たちの活動のひとつに、署名活動があります。意を共にする方々にとつては価値ある活動でもあります。その活動に対し、

前から気にかかつていたのは、この会に参加している方々の実情を考えればなかなかこの活動を進めることには難しさがあることです。結局、仕方なく役員の方々に募り、わずかな署名数で対応しているのが現状でした。加えて、今、多くの人たちの意識には、自分のことを考えること

で精一杯なのか、他とのつながりが薄れているのが現状であることも確かです。そのことは、意識調査や世論調査に「わからない」「どちらでもない」が多いことから意識の低下を感じざるを得ない。署名活動は多くの価値ある活動、影響力のある意思表示でもあります。しかし、前述の現状から、「たかが署名」になり得る状況にあることも確かではないでしょう。

そこで、本支部では、今年度から、「署名活動」への協力者を募集し、その協力者を核にした署名活動の展開で、活動の広がりを目指す試みをしました。

まず、9月には全員を対象に署名活動協力員の募集をしました。「協力します」「事情があるときを除き協力します」の回答が、140名余りの構成員のみならず、28名の応募がありました。その最初の試みを11月下旬から12月中旬にかけて実施しました。沖縄に関する署名でしたが、各協力員に対し、返信用封筒を入れたら署名集めの依頼を行いました。結果は、154名の署名を得ることができました。題字に「たかが署名」と書きましたが、署名そのものの価値が薄い活動という意味ではなく、価値を高めることの低さを意味するが、予想以上の集約に驚いているところです。

今、私の心には「人と人とのつながり」が、まだまだ残っていることを確信するとともに、口先だけでなく、実につながる活動で、今失いがちな若い方々の一体感にも影響を与えたいものです。

肩の凝らない学習会

村山 廣樹

本荘由利支部
今年の退婦教との合同学習会は27名が参加し、「転倒骨折予防教室」と題する学習会でした。講師はマスター中高老年期運動指導士・温泉利用指導者の肩書を持つ坂本裕子さん。椅子に座ったままでできる運動・筋トレを実際にやってみると、参加者一同みるみる姿勢がよくなり若返ったよう

した。

主な内容――

○筋肉はいくら年をとっても鍛えることができる
○膝がつま先より出ないように座る筋トレ
○万歳した手を肘から下げて胸を広げる
○肩甲骨を開閉・上下することで血液の流れをよくし正しい姿勢をつくる
○座ってつま先を立てた状態で片足ずつ上げる（実際かなりの負担がかかる）
○その他スクワットやもも上げの仕方を教わり、あつという間に90分が経過しました。

これを書きながら、すでに新鮮だった印象がどこかに吹き飛んでしまっています。継続することが大切なのに。

2016年度 秋退教役員一覧

役職	氏名	支所	役職	氏名	支所
会長	川村 豊太	秋田	常任委員	池田 信男	秋田
副会長	松森 秀忠	能山	同	藤峯 尉一郎	仙北
同	内藤 眞吾	秋田	同	仲村 吉光	大北
事務局長	樋口 新平	大北	会計監査	茂木 栄逸	秋田
同次長	小林 基一	男湯南	同	鈴木 儀	仙北
同	石山 武志	秋田	同	木村 三郎	大北

2016年度 各支部役員一覧

支部名	会員数	支部長	副支部長	事務局長・同次長
鹿角	53	伊藤 正信		◎成田 伸世
大館北秋	186	島内 重昭	松尾 和男 村 吉光	◎菅原 克夫 ◎松橋 英雄 ◎樋口 新平
能代山本	162	松森 秀忠	島山 春雄	◎佐々木 紀久男 ◎梅田 喜孝
男鹿湯上南秋	44	黒沢 健文	夏井 義一	◎佐藤 善司 ◎小野 基司
秋田	155	内藤 眞吾	篠田 正史 佐藤 ツチ子	◎大友 武夫 ◎嵯峨 静男
本荘由利	167	桐田 賢二	沼倉 只輔	◎村山 廣樹 ◎猪股 弥太郎
仙北	141	伊藤 謙也	菊地 進一 佐々木 淳一	◎藤峯 尉一郎 ◎武藤 滋 ◎高橋 真理子
横手	77	松井 恭志	小西 栄子 谷 子雄	◎阿部 和夫 ◎村岡 洋志 ◎阿部 寛

985名

湯沢雄勝は休会

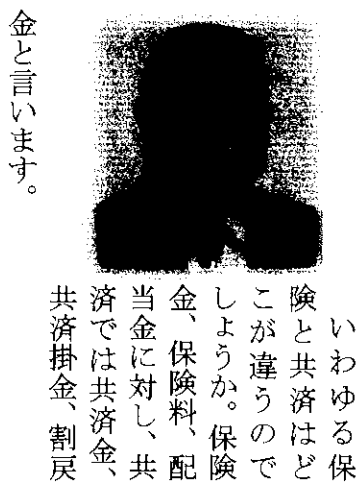
保険と共済の違いについて

教職員共済秋田県事業所長 篠田 正史

が安い(小・中教職員)

②教職員の死亡率が低いので掛け金が安い(小・中教職員)

平均死亡率0.06%



いわずゆる保険と共済はど

が違おうのでしようか。保険金、保険料、配当金に対し、共済では共済金、共済掛金、割戻

③利益は割戻金として組合員に還元(保険会社は株主へ)

◇昨年は災害が多く、忘れないうちにやってきました。いつ何が起きるか予測はつかないが備えだけはしっかりしたい。

編集後記

◇一昨年から経費削減のため、会報発行2回のうち1回は役員だけで作ってきたが、今号からは2回とも役員だけで作ることにした。そのためにパソコンへの打ち込みは会長以下4名が手分けをして作業を行ったので、誤字、脱字などあると思うがご容赦ください。会報に寄稿してくださった方々、協力してくださった方々にお礼と感謝を申し上げます。(樋口)

金と言います。これは保険会社と共済は、監督官庁と根拠法令が異なるからです。保

①非営利なので掛け金が基本的に安い

④加入者が教職員に限られているので、共済商品の情報伝達については学校関係の組織やダイレクトメール、ネットを通じて行い、宣

この度の学習会では前段で学校現場の「今」を書記長さんに語ってもらい、3曲ほど歌って和やかな雰囲気

気をつくりました。手話付きの歌は好評でした。

伝費を安く抑えることができる